

1 停電対策

大規模地震発生！どうする？

あたり前のように使っている電気が、突然使えなくなったら…
夜間の場合、安全に避難することや情報を入手することが困難になります。

熊本地震による停電戸数は最大で約48万戸

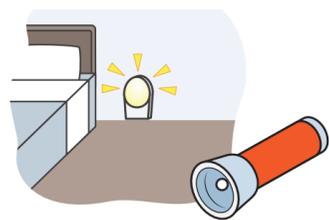
(出典：非常災害対策本部資料より)

身の安全を確保するために、地震発生時の停電に備えましょう。

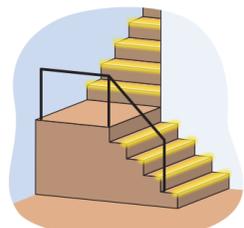
備え① 安全に避難するためには

夜間の場合、出口がわからない、床の段差やガラスの破片が見えないなど、とても危険です。

→ **リビングや寝室などに懐中電灯や足元灯を備えましょう。**



懐中電灯と足元灯を兼ね、停電や地震が起きた時に自動的に点灯するタイプが有効です。



足元灯の設置が難しい階段などには、蓄光テープが効果的です。

備え② 災害情報を確保するためには

インターネットや携帯電話などを利用できないおそれがあり、情報を得ることが困難になります。

→ **ラジオや予備の電池を常備しておきましょう。**



停電時、屋内で救助を待つ場合や
屋内での避難生活に備えて

家庭用医療機器等については必要な予備バッテリーを備え、停電時の電源の切り替え手順などを確認しておくことも必要です。

手動で充電できるラジオもあります。

【地震による電気火災の発生に注意！】

地震による火災の過半数は電気が原因であることをご存じでしょうか。

東日本大震災の本震による火災で、原因が特定されたもの108件のうち58件が電気関係の出火でした。
(2011年東日本大震災火災調査報告書より)

地震発生後、避難のために自宅を離れるときは、**停電時であってもブレーカーを切りましょう。**不在中に電気が復旧したとしても、電気ストーブやヒーターなどの上に落下した布などからの出火を防ぐことができます。

また、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合には、**一定以上の揺れが発生した際に電気を自動的に止める感震ブレーカーの設置が有効**です。なお、感震ブレーカーの設置に際しては、急に電気が止まっても困らないための対策と合わせて取り組む必要があります。

※上記は、主に地震で停電した場合の留意点を記載したものであり、地震発生時の対策を網羅したものではありません。地震対策も合わせて実施してください。

出典：内閣府ホームページ http://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/denkikasaitaisaku/pdf/teiden_low.pdf

2 避難に関する情報

長南町から発令される避難情報

水害、土砂災害が発生する恐れがある際に避難行動を促す「避難情報」は、「警戒レベル」の表示と併せて、発令します。避難のタイミングを見極める基準の一つとして、どのレベルで避難すべきか家族で話し合っておきましょう。

警戒レベル	避難行動	避難情報等	気象庁などから出る情報
レベル5	すでに災害が発生している状況。命を守るための最善の行動を取る。	災害発生情報	氾濫発生情報、大雨特別警報など
レベル4	安全な場所へ、 全員避難 。移動が危険と思われる場合は、自宅内のより安全な場所に避難。	避難勧告／避難指示（緊急）	土砂災害警戒情報、氾濫危険情報など
レベル3	高齢者など、避難に時間を要する方は避難 。その他の方は避難の準備をする。	避難準備・高齢者等避難開始	氾濫警戒情報、洪水・大雨警報など
レベル2	ハザードマップ等により、自らの避難行動の確認。	注意情報等	洪水・大雨注意報など
レベル1	災害への心構えを高める。	早期注意情報等	早期注意情報など

特別警報について

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。

特別警報の発表基準

現象の種類	基準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降水量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	
高潮		暴風が吹くと予想される場合
波浪		高潮になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合	
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合	
津波	高い所で3メートルを超える津波が予想される場合（大津波警報を特別警報に位置づける）	
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合（噴火警報（噴火警報レベル4以上）及び噴火警報（居住地域）を特別警報に位置づける）	
地震（地震動）	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合（緊急地震速報（震度6弱以上）を特別警報に位置づける）	